

協働事業プロセス相互検証シート

1 事業計画段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・共通する課題や取り組みを双方で確認し、役割を考え事業の分担を検討し立案した。(動画作り・カジークジー・親子の居場所連絡会・エリアや区域の子育て支援ネットワーク)
- ・行政や社会的な子育て支援の方向性を考慮し、地域課題等について双方で話し合い、事業を計画した。
- ・会議で顔を合わせて話し合う良さはあるものの、同じテーマについて色々な会議体で話していたり、何年も継続しているため、時代に合わせた変化が必要。事業(居場所連絡会、サークルリーダー研修会)の効率的な持ち方や、開催場所を変えていくなど、整理して体系化する必要がある。
- ・区と拠点の役割、地域が自助としてやること、の整理が必要。

【今後改善が必要と思われること】

- ・既存の事業について目的や必要性を十分精査し、より効果的に行う。協働で行っている事業については、それぞれの立ち位置を共通認識し、役割を果たす。
- ・事業単位では話し合いをしてきたが、区や市の方針、社会的動向や国の施策(例:子ども家庭センター)の共有をしながら、区・拠点の双方が担う役割・地域へのアプローチについて確認していく時間を確保する。

2 事業実施段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・包括支援センターのモデル区、子ども家庭センター実施先行区の拠点として、拠点の事業計画が、大きな取り組みの中のひとつとして機能しているかを意識して事業を実施した。区には、専門的な視点でのアドバイスをもらい、養育者に必要な支援を提供したり、担い手の人材育成に活かした。

【今後改善が必要と思われること】

- ・各関係機関(区・区社会福祉協議会・地域ケアプラザ)と、地域の課題について現状を分析し、方向性や今後の展望について十分に話し合う時間を確保し、効果的な推進を図る。

3 事業の振り返り段階

【共有できたことや認識に違いがあったこと】

- ・区・拠点それぞれが、様々な世代に働きかけることができる強みを活かして周知・企画して事業を実施した。
- ・事業の振り返りや定例会の中で、区内の子育て支援関係機関(区社会福祉協議会、地域ケアプラザ、地域の担い手も含め)の中で果たすべき区・拠点双方の役割を確認した。
- ・子育て支援の政策は時代とともに変化しているが、「個別支援」と「地域との連携・地域資源開発」は子育て支援における車の両輪であり、重要なポイントであるため両輪のバランスを取ることも大切。

【今後改善が必要と思われること】

- ・事業の目的や区・拠点双方の役割を整理し、ネットワークのあり方を検討し、妊娠期から乳幼児期までの切れ目ない支援を充実させる。
- ・拠点の役割や事業についてさらに広く区民に認知・理解されるよう、ネットワークを活かして働きかける必要がある。
- ・区の現状や子ども家庭センターの機能をふまえ、双方が捉えた親子の状況などを共有した上で、子育て支援に関する方向性を区・拠点で丁寧に地域に伝え、地域の子育て支援に取り組む必要がある。